

万の灯り、ゆれて心ひとつ

—福井県池田町・いけだエコキャンドル—

主事研究員 小針美和

福井県東南部、岐阜県境に位置する福井県池田町は、「自然資源」「文化資源」「人的資源」「社会資源」の4つの地域資源を活用し、協働の利益を得る「地域資源連結循環型農村」を目指して、様々な「まち育て」の取組みを展開している。その取組みのひとつがリサイクルキャンドルによるイベント「いけだエコキャンドル」であり、毎年9月の最終土曜日、町はあたたかなキャンドルの灯りに包まれる。

1 1,000本のキャンドルからのスタート

「いけだエコキャンドル」のスタートは今から10年前にさかのぼる。池田町では、2003年9月に住民が主体となって「人と自然、心がかよう環境理想郷(エコトピア)」を基本理念とした「池田町環境向上基本計画」、それを実践するための「かえるプロジェクト」を策定、家庭等から出る生ごみを堆肥化し、農地に還元する「食Uターン事業」等の具体的な取組みに着手していた。

まちぐるみの取組みを進めていくなかで、町民の環境向上への意識をさらに高めるためのしかけとして、ありきたりな座学の勉強会などとは一味違うことができないか…と思案しているときに、大阪から池田町に移住して農業を営む家族が、当時はまだあまり知られていなかった「キャンドルナイト」を実施していたことや、町で取り組む廃油の資源再生化運動に着想を得て生まれたアイデアがエコキャンドルだった。

そこで、まずは町役場や環境保全・向上活動を行うグループ「環境パートナーいけだ」「NPO法人環境Uフレンズ」メンバー有志数人により、05年7月に1,000本のろうそくを試作してプレイベントを実施。その後、試行錯

誤を重ねつつまちぐるみのイベントへの機運が高まっていき、同年10月に第1回目となる「10,000本のエコキャンドル」が開催された。

2年目には名称を「いけだエコキャンドル」として1年目の3倍の30,000本に挑戦、企画団体も環境団体のみでなく青年団や社会福祉協議会等に広がっていく。さらに、町内のアマチュアバンドによる「キャンドルステージ」や池田町の農産物を使った「食のブース」といったキャンドル以外の様々な催し物も企画・展開されるなど、イベントそのものが進化していきながら現在に至っている。

2 すべてが手づくりのイベント

いけだエコキャンドルの最大の特徴は、企画・立案、準備からイベント後の後片付け・清掃に至るまでを町民やボランティアの人たちが担う、“協働による手づくりのイベント”ということにある。

まず、作業分担、ろうそくの方法調達、会場の確保や道路借用申請、メインアート「キャンドル畑」や告知ポスターのデザイン等、イベントの企画・推進は町内の若者有志で組織された実行委員会を中心に行う。

キャンドルアートに用いるろうそくは、廃品をリサイクルしている。ろうそくの芯は、町内や近隣の小中学生が給食の牛乳瓶のキャップをひとつひとつ洗って乾燥させたものに、穴を開けて芯になるヒモを通して作る。芯作りを担うのは、「ふれあいサロン(社会福祉協議会が開催する高齢者の仲間づくりの場)」等に集まる町民の方たちだ。

ろうの原料となる食廃油は、町民が家庭内で不要となった天ぷら油をガソリンスタンドに集め、「NPO法人環境Uフレンズ」が回収し



写真1 ボランティア手づくりの案内看板



写真2 着火棒による点火の様子

ている。ろうを流し込み、芯を沈めてろうそくに仕上げる作業は、“1万個大作戦”と銘打って、7月下旬に町民等のボランティアが行う。参加者が力を合わせ、1日で1万個以上のキャンドルを準備する。

ろうそく並べや看板づくりなどの当日の会場づくりには、町民のみならず、エコキャンドルを楽しみに町外・県外から訪れる来場者も参加する(写真1)。家族、職場の同僚やサークル等のグループが協力してろうそくを作り、思い思いのデザインのキャンドルアートを出展する「グループアート」のコーナーもあり、本番が近づくとつれて会場はろうそくで埋められていく。

そして、18時を過ぎ夕闇が迫る頃、いよいよ点火が始まる。キャンドルへの点火も、手づくりされた「着火棒(ちゃっかばい)」を使い、来場者も含めた全ての人の協働によって行われる(写真2)。

3 万の灯り、ゆれて心ひとつ

15年9月26日、「いけだエコキャンドル2015」は10周年の節目として「原点回帰」をテーマに開催された。

メインアートの「いけだ蝶」は、縦30m×横25m、3,000個のキャンドルを使用し、羽根



写真3 2015年のメインアート「いけだ蝶」

の上部には「いけだ」の文字を入れるとともに、自然をイメージした桜の花びらと葉がデザインされている(写真3)。また、下部には水の流れや水滴、池田町農業の中心をなす米を「ともえ紋」で表し、中央のハートで町民の地元愛を表現している。闇夜のなか淡いオレンジ色に浮かぶ蝶の姿は、その場に集う人たちの心を魅了していた。

穏やかに流れる時間のなかで、池田町に住む人、心を寄せる人々の協働が紡ぐキャンドルアートの灯りは、日常の忙しさのなかで忘れがちな大切なものを思い出させてくれるように感じられた。

(こばり みわ)